

# どうする、どうなる？ 女性のキャリア 仕事×育児の時代



司会：山下 早代子氏  
実践女子大学  
人間社会学部 教授

「子どもを持っても生涯働き続けたい」そんな女性の願いを叶えるために、どんな意識や環境が必要か、社会の現状や今後の見通しは？ 国の「働き方改革実現会議」のメンバーとして活躍される方や、社会の各分野で「仕事と育児の両立」の支援に携わられている方々をお招きし、講演を行っていただくほか、パネルディスカッションの時間を設けて語り合っていました。また、企業が展開する子育てサポートに参加した本学学生も、体験からどのような実感を得たのかプレゼンテーションを行いました。

## 《講演》産むと働くの授業 仕事、結婚、出産、子育て 男女で考えるライフプラン

これからの女性は、仕事や結婚・出産を含めたライフプランをどのように描くべきか。また、仕事と育児を両立させながら充実した人生を送るには何を指すべきか。ジャーナリストとして「女性と仕事」を追究し、国への提言を積極的に行う講師がメッセージを贈りました。

### ■これからは女性もしっかり働き、自立することが大切

仕事と育児を両立するためにどうすればいいか。まず女性の皆さんには働くことを「当たり前」と思ってほしい。気をつけてほしいのは、将来設計を描く時、「しっかり稼いでくれる夫の存在」を前提にしていないか、ということです。夫がリストラされたり、病気で働けなくなる可能性もありますし、離婚率も高くなっています。女性もしっかり働き収入を得て自立した生活を送ることが必要な時代になっています。

また、正しい妊娠の知識を持っていただきたいですね。「就職後しばらくは仕事に専念し、キャリアを積んだら結婚・出産」と考える女性は多くですし、若いうちに結婚・出産がなかなかできない日本の社会構造もありますが、一方で27歳以降妊娠率が低下し、35歳になるとさらに低くなるという現実があります。「仕事で活躍し、子どもを持ちたい」と考える方は、こうした知識のもとにキャリアプランを立てることが大切です。



講師：白河 桃子氏  
少子化ジャーナリスト、  
内閣官房「働き方改革実現  
会議」委員

### ■専業主婦志向より、共働き志向の方が結婚しやすい

調査すると、多くの女性には「結婚したい」という思いがあります。しかし実際には、20代後半の女性の大半が未婚となっています。若年層の恋愛に対する関心が低くなっている側面もありますが、経済的な問題も大きく関わっています。男性には「自分の収入で家族を養えるだろうか」という不安、女性には「子どもを産んだら働けないから夫の収入に期待したい」という思いがあります。賃金体系が変わって「長年働いてくれている」ヒトではなく「どれだけの成果を挙げたか」というコトに対して賃金が支払われるようになって現在の、男性が確実に多くの収入を得られる状況ではなくなり、家族を養えるほどの収入がある男性の絶対数が減っています。女性は結婚後も共働きすることを視野に入れた方が、結婚相手の選択肢が広がります。男女ともに年収300万円以上の正社員が結婚しやすい傾向となっています。

### ■長時間労働から男性を解放することも重要

女性が仕事と育児を両立できない原因の1つに「お父さんが子育ての戦力にならない」ことがあります。男性に育児に関わりたくい思いがあっても、長時間労働が当然の会社ではそれができない。私も参加している内閣官房の「働き方改革実現会議」では、長時間労働の是正に取り組

んでいます。これには「男性を早く家庭に返す」という意味もあります。

近年、出産後に職場復帰する女性は増えてきましたが、まだ53%程度です。キャリアの中断が及ぼす影響は大きく、一度仕事を辞めてしまうと、その後、正社員に復職できるのは4人に1人、300万円の年収を回復できるのは10人に1人程度です。今後は環境も整ってくるので、ぜひ出産時に会社を辞めず、出産休暇や育児休暇、短時間勤務制度を活用して仕事を続けていきたいと思えます。また最近では、「働き続けたい」という強い意志がなくても仕事と育児を両立する人が増えてきました。これは職場環境が整っているため、環境を選ぶことがとても重要だとわかります。

### ■「仕事と育児の両立」ができる会社を見極めるポイントとは

仕事と子育てが両立できる会社を探すためには、「男性社員も育児休暇を取っている」「有休消化率が高い」「フレックスタイムや在宅勤務制度を多くの社員が活用している」といった点を見ると良いでしょう。

正社員同士の夫婦で途中女性が育児休暇を取り、その後短時間勤務制度を活用しながら仕事を続けた場合と、女性が出産のタイミングで仕事を辞めた場合では、生涯世帯年収に億単位の違いが生じます。これからは女性もしっかり働き、男性も家事や育児をする、「共稼ぎ共育て」夫婦を目指していくのが良い形なのではないかと思えます。

### 質疑応答（抜粋）

参加者A：昨年本学を卒業し、現在営業職で働いています。今の働き方で仕事と育児を両立できるか不安に思っているのですが。

白河：営業職はデジタルツールの活用などで柔軟な働き方が可能な職種でもあります。まず、「自分は仕事に情熱がある」と常に周囲に発信し、出産などのライフイベントを迎えたら「こうしたら続けられる」と職場に申し出てはいかがでしょうか。会社に理解がなければ転職もできるので、焦らず長い目で考えていただきたいと思います。

参加者B：女性が育児休暇や短時間勤務制度を活用する際、同じ職場の独身女性にどう理解を求めるとかを難しく思っています。

白河：これは上司に責任があると考えます。しっかりマネジメントをして仕事を割り振るとともに、過大な負担がかかっている社員がいれば、処遇や賃金で報いる必要があります。女性の育児休暇ばかりではなく、今後は男性の介護休暇取得なども増えていくことが考えられますので、管理職もマネジメントスキルを高めていかなければならないでしょう。



▲充実した資料をもとに具体的にわかりやすい講演が行われ、参加者は皆、熱心に聞き入っていました。

# 《パネルディスカッション》

「仕事と育児の両立」の支援に関わる公的機関やNPO 法人の方に、それぞれの活動を紹介していただきました。また、共働き家庭の子育て支援に携わった本学学生が自身の体験談を発表。最後に、白河氏とコーディネーターの山根氏が所感を述べました。



コーディネーター：山根 純佳氏（実践女子大学 人間社会学部 准教授）

## ■相原 貴子氏（マザーズハローワーク東京 室長）

マザーズハローワークは、子育てをしながら働きたい方の就職支援を目的に、2006年に全国に設置されました。東京には現在、渋谷のほか日暮里、立川にも開設されています。また、池袋や八王子、木場、町田、府中の5カ所のハローワークの中にマザーズコーナーを設置して子育て中のお母さんを支援しています。特徴的なサービスとして5点紹介します。1つ目は、担当者制による継続的・計画的な就職支援。専門資格を持つスタッフが予約制で利用者さま個別に担当し、ご相談をお聞きしながら一貫した就職支援を行っています。2つ目は子育てと両立しやすい求人確保。専門スタッフが会社を訪問して環境を確認したうえで求人を受理しています。3つ目は託児付きで就職支援の各種セミナーを行っていること。1回で終わるものから数日かけての講習会まで用意しています。4つ目は、子育てに関わる設備が充実していること。お手洗いにはベビーベッドもありおむつ交換ができます。5つ目は、保育サービスに関する情報提供も行っていることです。



渋谷の場合、今年4月から10月までの上半期におけるご登録者は2,761名、850件の就職支援を行いました。求人内容はパートタイムが極めて76%、全体の87.5%が事務職となっています。

## ■前村 美千代氏（認定NPO法人フローレンス 広報マネージャー）

フローレンスの事業のうち、今回は3点をご紹介します。1つ目は「病児保育事業」。子どもが病気になった時、専門のベビーシッターがお宅に伺ってお子さまをお預かりするサービスです。ひとり親家庭については寄付を募って安価にご利用いただけるようにしています。2つ目は「小規模保育事業」です。大人1人で子ども3人まで預かることができる保育ママ制度を活用したもので、小規模で家庭的な保育を行っています。都内に13軒、仙台に2軒ありますが、この取組みが国で採用され、現在多くの事業者が日本各地で小規模保育を行っています。3つ目は「障害児保育事業」です。障害をもって生まれたお子さんを預かる保育所を、2014年、荻窪に開設しました。現在は巣鴨にもあり、今後も新たに立ち上げていきたいと考えています。



フローレンスは女性が働きやすい環境づくりや、仕事と育児の両立を自ら進めている組織でもあります。社員数は約450名、女性社員の比率は8割以上で、管理職比率も77%です。在宅勤務や子育て中の短時間勤務など働きやすさにも配慮しているほか、男性職員の育児休業取得も後押ししています。

## ■齋藤 真季さん・村井 陽菜さん

（本学人間社会学部2年 スリール(株)「ワーク&ライフ・インターン」実習生）

齋藤：私たちが参加したワーク&ライフ・インターンは、学生が4カ月間、共働き家庭のお子さまをお預かりすることで、働くことや家庭を築くことについて学べる体験型インターンシップです。1家庭に対し、学生2人1組でお預かりする形になります。



私はこのインターンに参加するまで、子どもができれば自分の母のように仕事を諦めて育児に専念しなければならないのかな、と考えていました。しかし、記者の母親とヨットで世界1周に挑戦している父親の家庭の、小学校3年生の女の子をお預かりして、こんな家庭もあるのだと驚くと同時に、それぞれやりたいことに挑戦している親御さんの姿に憧れを抱きました。さまざまな家庭の姿に触れ、自分の意志と工夫で、仕事と育児は両立できると考えが変わりました。

村井：私は共働き家庭で育ち、母親がいつもいる家庭に憧れを感じていました。このインターンでは母親が営業職で父親が単身赴任、小学校1年の男の子と3歳の女の子がいる家庭の子育て支援を経験しました。子どもたちが母親の仕事をよく理解していて応援している様子、父親も単身赴任先から戻ってきた時は積極的に育児に関わっている様子を見て、一緒にいる時間が少なくても向き合っている時間が濃いなら家族は笑顔で過ごせると学びました。

## ■プレゼンテーションを受けて

白河：マザーズハローワークは、仕事と人をつなげる作業を丁寧にやっていたらいいなというのが印象的でした。今後は非正規就労の独身女性など支援対象をより広げていただければと思います。フローレンスには新しい事業にどんどん挑戦していただきたいです。スリールのプログラムに参加された学生さんは「自分は経験してこのように変わった」というお話をされていましたが、まさに「体験して、知り、変わる」ことが大切なのではないかと思っています。

山根：仕事と育児の両立を支援してくれる会社を探すことも大切ですが、これからは自分たちが積極的に声をあげて育児を応援する社会をつくっていくことも重要だと思いました。



▲それぞれの活動について気づいたことや要望などが白河・山根両氏から提言されました。

## 来場者アンケートから（抜粋）

- 現在学生ですが、将来、仕事と育児を両立できるかとても不安でした。働き方改革が進められているという話を聞いて少し安心しました。今日のお話をもとに人生設計を見直したいと思いました。（女性・20歳代・渋谷区在学）
- 女性が仕事と育児を両立させることは容易ではなく、女性に対してのみ負担があると感じてきました。男性の働き方を変えるこそが今後の日本を変えることにつながると改めて認識しました。（女性・60歳代・その他）
- 女性だけでなく男性も仕事と育児の両立に強い意識を持ち、できることから積極的に行うことが大切と学びました。（男性・20歳代・その他）
- 女性が仕事と育児を両立させることは容易ではなく、女性に対してのみ負担があると感じてきました。男性の働き方を変えるこそが今後の日本を変えることにつながると改めて認識しました。（女性・60歳代・その他）